

ご挨拶

このたび、2018年6月29日より7月1日の3日間の日程で、日本思春期青年期精神医学会第31回年次大会ならびに国際思春期青年期精神医学・心理学会第2回地区大会を大阪にて開催することになりました。日本思春期青年期精神医学会はこれまで国際思春期青年期精神医学・心理学会と密接な連携のもと、活動して参りましたが、国際学会の開催は今回が初めてになります。今回の大会が、日本のみでなく、世界各国からの思春期青年期の精神医学の専門家の意見交換及び交流の場となることを目指したいと考えております。

大会の全体テーマは、Meeting Adolescents in an Ever Changing Worldです。このテーマが選ばれたのは、社会全体の変貌に従って、青年期の在り方が変化していることを背景に、正常な、あるいは病的な青年期のパーソナリティの発達を考える必要があるだろう、と考えたからです。また、今回は東アジア、そして日本で開かれるということから、文化の差異が青年期に及ぼす影響も俎上に載せることになりました。特に、東アジアの中で、青年期の問題がどのように表面化し、それにどのように対応すべきなのか、について扱っていくことを考えています。

そのために、今回の大会では、メンタライゼーション、愛着、およびパーソナリティ障害の研究で世界的に著名なアンソニー・ベートマン先生をお招きすることにしました。先生には、講演、シンポジウムへの参加のみでなく、症例検討をしていただくことになっています。また、国際思春期青年期精神医学会の会長を始め、理事の方々には、講演、シンポジウムの参加など、様々な形で、大会に参加していただくことになっております。

大会プログラム委員会では、既に4つのシンポジウムおよび3つの講演を準備しております。それらは有機的な関連性があるように構成されています。メインシンポジウムは、思春期青年期がどのような時期であるかを正常並びに病的な発達の観点から理解し、思春期青年期精神医学がどのような貢献をすることが出来るかを検討することをテーマとしています。それとともに、東アジアでは重大な問題となっている引きこもりをテーマとしたシンポジウム、この時期のパーソナリティの病理に焦点を当てつつ、国際比較を行うシンポジウム、東アジアに顕著にみられる精神医学的問題（具体的には、引きこもりもそうですが、他にも例えば、ネット依存やSNS使用による情緒不安定の問題などが挙げられると思います）に焦点を当てたシンポジウムです。

また、既に決まっている講演には、アンソニー・ベートマン先生、現在ISAPPの会長であるフラハティ先生、そして現JSAP会長である小倉による講演があります。

大会の公用語は英語となりますので、これらのシンポジウムや講演は原則として英語で行われますが、今回は参加者の便宜を考えて、メイン会場で行われるプログラムには同時通訳をつけることにしました。質疑にも通訳がつきますので、積極的に参加していただけたと思います。

以上ですので、大会実行委員会では、皆様奮ってのご参加をお願いしたいと思っておりますが、ただ参加するのではなく、積極的に参加していただきたいと思っております。そのためには、是非、演題発表も行っていたいただきたいと考えております。色々なタイプの演題発表が可能ですので、どうぞそのページをご参照ください。また日本語で発表されたい参加者のためにも、特別にセッションを設けました。

以上の次第で開催いたしますが、大会の成否は皆様の積極的な参加にかかっておりますので、重ねまして、是非、ご検討くださいますようお願い申し上げます。

大会実行委員長
館 直彦